

西南学院大学 図書館報

No. 40 昭和43年11月12日発行 西南学院大学図書館

新図書館完成記念 特集号

新図書館 ▶

鉄筋5階建
閲覧用座席
数431



新図書館完成にあたって

図書館長 坂本重武

かねて待ち望んでいた図書館の新築が完成したことは、まことによろこばしいことである。図書館の増築が考えはじめられたのは、昭和36年、すなわち、木村前館長の時代であったが、それから8年、さまざまな曲折はあったけれども、ここに堂々たる5階建ての新館が出現したのである。旧図書館が落成したのは、昭和29年であるから、14年前になる。当時と現在を数字的に比べて見ると、学生数は1学部1,623人に対して、現在は5学部5,999人となり、図書冊数は約4万冊から、約12万冊に増加している。新図書館の面積が3倍になったのは、まさしく本学の発展に歩調をあわせるものといえる。当分は4つの階だけを使用するが、やがて、5階の内装が完備され、さらに東側には積層書庫の建築が実現すれば、60万冊を収容することができるようになる。

新図書館の特色のひとつはその集中制にある。

校地がわかれ、多岐の学部に分かれている場合は分散制が必至になるが、本学では分館を持っている神学部を別にすれば、文・商・経・法の4学部と短大とを包摂し、教養と専門・学習と研究を1か所に集中することになったのである。1階は学習室2・3階は開架室とし、特に2階には指定図書をおいている。この指定図書は次第に増加し、やがては2階全部を占めるようになり、学習に関する限り、1・2階で充分になるであろう。4階は閉架室であるが、そこには教授閲覧室・資料室があって研究の便をはかることになっている。新館落成に際して国連寄託図書館が本学におかれることになったことは特記すべきことであるが、当分は4階に仮住居のほすである。私はこの新図書館が、学習に、教育に、研究に、大いに利用せられ、本学発展のいしずえとなることを心から祈るものである。

新図書館の諸施設紹介

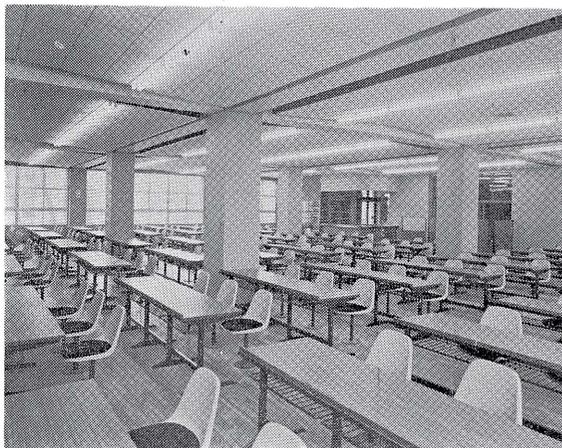
完成した新図書館は、鉄筋5階建、総面積4437.5㎡(1342.3坪)となり、その大きさは旧図書館の約三倍半にまで拡大された。しかし、新図書館は旧図書館に較べて形だけ大きくなったのではない。その内容についても、近代的図書館としての機能を具えるよう色々な配慮がなされている。そこで1階から次第に階を追っていきながらその施設の内容を紹介することしよう。

1階 (平面図参照)

○学習室 (座席数 174)

専ら学生の自学自習のための室である。従来の開架制度は今後も維持されるけれども、それは2階3階に上げられ、1階には開架閲覧室はない。従って、1階には比較的自由に出入りできるし、携帯品の持込みも自由である。学習室のカウンターには係員がいて、備付けてある辞書などの館内貸出しもしてくれる。この室は従って学習上大変便利な場所となるであろう。

▼ 教授閲覧室



▲ 学習室

○目録・新聞閲覧ホール

著者・書名・分類の各種の目録と、日刊新聞8種が並んでいる。

○休憩コーナー

ホールの奥は学生用の休憩コーナーであって、休憩・談話・喫煙ができる。

○作業室

印刷・製本などの作業や郵送図書貨物の荷解き、それに未整理資料の準備室として用いられる。

2階 (平面図参照)

○カウンター

受付・貸出などを行なう。

○ロッカー室

○開架閲覧室 (座席数 132席)

この室には教養関係図書・指定図書・辞書・雑誌が並んでいる。窓際には個人用机がおかれている。

○館長室・事務室・職員休憩室

(次頁上段につづく)

3 階 (平面図参照)

○開架閲覧室(座席数 116席)

主として専門教育関係の図書が並ぶ。即ち、法学・経済・商学・英語英文学・仏語・児童教育科関係などである。2階と同じく、個人机がある。

○視聴覚室兼会議室・視聴覚資料室

最近の視聴覚資料の発達と増加に対応して新しく設けられた。当分は会議室としても使われる。

○複写室

文献複写は図書館の重要なサービスの一つであって、将来この方面のサービスの強化を図るためにおかれた。

○休憩コーナー

ホールの奥は学生用の休憩コーナーとなっている。

4 階 (平面図参照)

(学生は4階は利用できない。)

○教授閲覧室(座席数 9席)

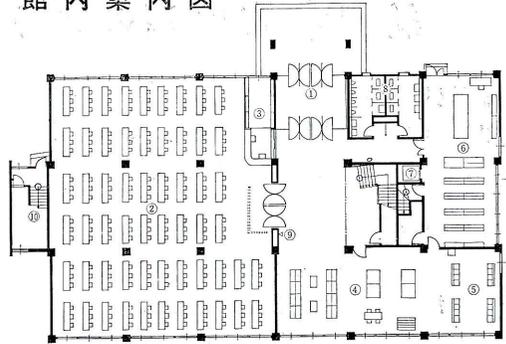
専任教員用の閲覧室で室内には専門の学術雑誌などが配列される。

○閉架図書室・資料室

洋書の大部分それに判例センター・官公庁等統計資料・卒業論文・波多野文庫およびすべての製本済雑誌・各大学の論集などが並んでいる。

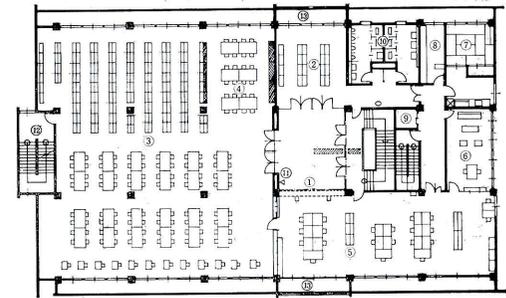
館内案内図

- ① 玄 関
- ② 学 習 室
- ③ カウンター
- ④ 目録・新聞閲覧ホール
- ⑤ 休憩コーナー
- ⑥ 作業室
- ⑦ エレベーター
- ⑧ 便 所
- ⑨ 消 火 栓
- ⑩ 非 常 階 段



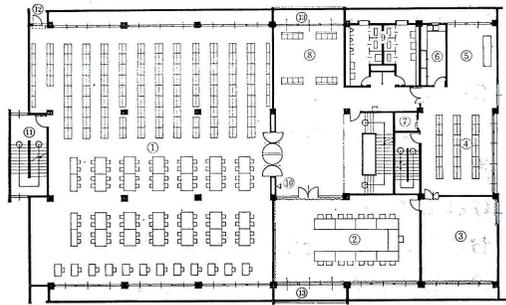
▲ 1 階

- ① カウンター
- ② ロッカー室
- ③ 開架閲覧室
(辞書・指定図書・一般教養関係図書)
- ④ 雑誌コーナー
- ⑤ 事務室
- ⑥ 館長室兼応接室
- ⑦ 職員休憩室
- ⑧ 職員更衣室
- ⑨ エレベーター
- ⑩ 便 所
- ⑪ 消 火 栓
- ⑫ 非 常 階 段
- ⑬ バルコニー



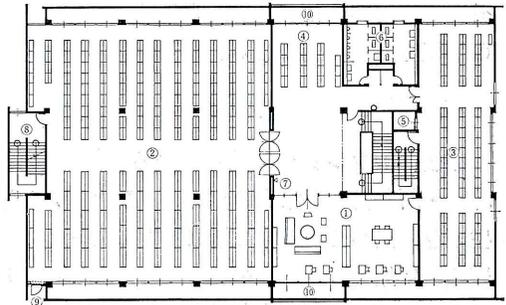
▲ 2 階

- ① 開架閲覧室
(法学・経済学・商学・英語英文学・フランス語などの専門図書)
- ② 視聴覚室会議室
- ③ 視聴覚資料室
- ④ 作業室
- ⑤ 複写室
- ⑥ 暗 室
- ⑦ エレベーター
- ⑧ 休憩コーナー
- ⑨ 便 所
- ⑩ 消 火 栓
- ⑪ 非 常 階 段
- ⑫ 救 助 袋
- ⑬ バルコニー



▲ 3 階

- ① 教授閲覧室
- ② 閉架図書室
- ③ 資料室
- ④ 特殊資料室
(国運寄託図書)
- ⑤ エレベーター
- ⑥ 便 所
- ⑦ 消 火 栓
- ⑧ 非 常 階 段
- ⑨ 救 助 袋
- ⑩ バルコニー



▲ 4 階

新図書館はどのように利用すべきか * * *

施設が全く一新された新図書館では、その利用方法や手続きも若干変わってくるので、特に次の点に留意して利用していただきたい。

①開館時間

平日 午前8時30分～午後7時

ただし開架閲覧室(2・3階)は

午前9時～午後6時

試験期および休暇中は変更がある。また毎月第一水曜日は午後1時に開架閲覧室をとじる。1階学習室はあいている。

②入退館手続

学生は入館に際して常に学生証を携帯しなければならない。必要に応じて提示を求められることがある。

1階学習室に入るには、入口で学生証を提示して利用票を受取り、退館時に記入のうえ提出する。携帯品は所持したまま入室できる。

2・3階開架閲覧室に入るには、2階入口のカウンターで学生証を提出して、ロッカーの鍵を受取り、携帯品を全てロッカーに格納しなければならない。その点は従来どおりであるが、そのあとロッカーの鍵をいったんカウンターにもどして代りに番号札と利用票を受取るように改められた。この点は十分注意していただきたい。退館時の手続きはこの逆である。

③館内閲覧および館外貸出

学習室カウンターに並んでいる辞書・新着書・文庫本は館内閲覧票に記入し学生証を提出して一時に2冊まで閲覧できる。学習室では館外貸出やその返却回収の事務をしない。学習室の図書は大部分禁帯出であるが、文庫本だけは館外貸出もできる。その場合、いっ

たん館内閲覧手続をとり、2階カウンターで館外貸出の手続きをとることとなる。

2・3階開架閲覧室では従来どおりである。

書架から自由に本を取り出してその室内で閲覧し、退室時に入口の返却台の上にもどすといったやり方である。館外貸出手続は2階カウンターで行なう。2冊8日間も従来と変わらない。閉架書庫内の図書の利用申込みも同様に2階カウンターで行なう。

④文献複写サービス

教授の研究、学生の学習用のための文献複写サービスを行なっているので、希望者は2階カウンターに申込みたい。

⑤視聴覚機材の貸出

教職員や学生諸団体(学友会・体育会など)は学習研究のために本館の視聴覚機材を借ることができる。16ミリトキー映写機をはじめ、8ミリ撮影機、映写機、テープコーダー・スライド映写機などがその主な種類である。

⑥その他

新図書館は以前にくらべて大分広がった。従ってどこに何があるか分からないことも多いと思うが、各階にある館内電話は事務室に通ずるようになっており、問い合わせなどにどしどし利用して

いただきたい。

また、意見や希望があったら、投書箱を利用し、この新図書館が本当に学習や研究に役立つ図書館になれるようご協力をお願いしたい。

新
図
書
館
利
用
心
得

国連寄託図書館が認められる



新図書館4階に設置

国際連合の資料を寄託されている図書館が日本には8館ある。それは、国立国会図書館、京都国連寄託図書館、北海道、東北、東京、広島各大学の国連寄託図書館、九州国連寄託図書館、および外務省国連図書館である。本年から、これに神戸大学と西南学院大学の2校が新たに加入されることになった。

本学では、かねて、国連で研究中の本学法学部大内助教授のあっせんにより、本学を国連寄託図書館として指定してもらうよう、外務省を通じて申請していたが、去る6月19日国連出版委員会において認可された旨、ウラジミロフ図書館長から通知があった。

国連の資料が、研究者にとって、いかに重要なものであるかは、ここに述べるまでもないことであるが、時あたかも、新館落成式を前にしてこの認可の通知を受けたことは誠によろこばしいことである。資料はすでにすこしずつ到着しつつある。新館への移転が完了したならば、早速整理して研究者の利用に供したいと思っている。

本学にこのように国連資料が寄託されるようになったのは、一に大内助教授の御尽力によるものである。特に記して感謝の意を表したい。

現在到着中の国連資料の一部をご紹介しますと

Compendium of Social Statistics

Monthly Bulletin of Statistics

U. N. Documents Index

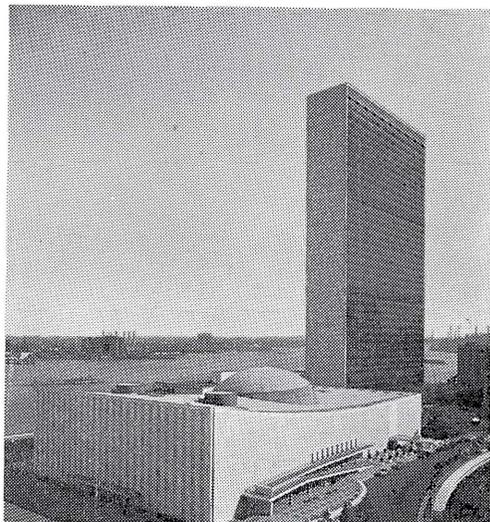
U. N. Economic and Social Council

U. N. General Assembly

U. N. Treaty Series

Yearbook of International Trade Statistics

などの統計的な諸資料が多く見うけられる。



▲ 国際連合全景

短大図書館の併合について

西南学院大学短期大学部児童教育科は従来旧中学校舎を使用していたが、このたび新校舎が、今の北側に完成して、やがて引き移ることになった。ところが新校舎には図書室を設ける余裕がないため、短大の蔵書約7,000冊を大学図書館に収容することになった。したがって、従来は西南学院大学短期大学分館と称していたものを解消し、今後は児童教育科の学生もみな大学新図書館を利用することになった。短大蔵書のうち一部約2,000冊は短大指定図書として開架閲覧室にならべ、他の約5,000冊は閉架室におくことになった。

これらの児童教育科の図書や雑誌には児童の教育や心理に関するものが非常に多いので、これまでの本館にはみられなかった一つの分野がつけ加えられることになったようである。

〈ニュース〉

○新図書館への移転

前期試験終了後、22日間休館して図書館の移転が行なわれた。全館員と二十数名の学生アルバイト、それに作業員その他の応援を得て、図書館に所蔵されていた13万余冊の図書と雑誌資料多数、数百点に上る備品や書架などを移転するとともに、従来学研で管理していた学術雑誌や論集・紀要の引取り、また短大図書室の併合に伴うその蔵書の引取りをするなど全くの大作業であったが、終始好天気にも恵まれたうえ、全作業者の熱心な働きによって予定どおり11月4日までに滞りなく移転を終了することができた。

ご協力いただいた方々に心から感謝したい。

○図書館委員会

43. 7. 17 (学研との合同委員会)

図書館と学術研究所の図書・資料について

43. 9. 19 新図書館の利用手続について
短大分館の併合について

43. 10. 5 (学研との合同委員会)

図書館と学術研究所の図書・資料について (再)

43. 10. 31 昭和44年度図書館予算案について

○研修・出張

私大連盟図書館研究集会 43. 7. 8~11

(於 静岡県下田町) 坂本館長出席。

私大図書館協会総大会 43. 8. 31~9. 2

(於 東京農業大学) 坂本館長出席。

全国図書館大会 43. 9. 5~7 (於 札幌市)

坂本館長出席。

○文学部実状調査

さる10月22日(火)、文部省の文学部視察委員の本学文学部の実状視察が行なわれ、学科の組織や教育課程の編成、図書館、学術研究所その他の施設の实地視察がなされた。

告知板

○ 新図書館の献堂式

きたる11月15日(金)午前11時より、新図書館の献堂式が、新装なった新館1階学習室において、九州管内の各大学をはじめ諸関係者を招待して挙行される。

従って当日は午後1時まで休館します。

○ 新図書館の開館

移転のため10月9日以降休館していましたが、新図書館はいよいよ11月5日(火)から開館しました。

○ 特別貸出図書の返却期限

移転による休館中の特別貸出図書は11月5日(火)から11月11日(月)までの間にご返却ください。

○ 大学祭期間中の開館時間

大学祭期間(11月12日~11月16日)中は、午後5時に閉館しますのでご承知ください。

■ 寄贈図書

○太田和男助教授より 新フランス語の基礎
他1冊

○樋口進助教授より 九州中国学会報 第14巻

○平田正敏助教授より 中小商店の組織化
他1冊

○波多信広教授より 西イリアンの思い出

○松井康秀氏より 鷗外と小倉

○伊藤祐之氏より 忘れ得ぬ人々

○九州産業大学より 学園15年史

○九州歯科大学より 九州歯科大学50年史

○東京女子大学より 東京女子大学50年史

(あとがき)

本号は新図書館完成記念特集号として編集されたものの、移転直後の堆積している仕事のかたわらで編集の方も思うにまかせず、又その内容も一部すでに西南学院大学広報で紹介されているが、更によりよくこのすばらしい新図書館を利用して頂くためにも一読して頂きたいと思っている。(伊藤)